

投歸スル者ハ。斬絞以下。各一等ヲ減ス。

越獄スルニ。從ハス。實ニ據テ首報シ。因テ罪囚。即時ニ獲ニ就キ。脱逃ヲ致サ。ルコトヲ得ル者。及ヒ反獄ノ情ヲ知テ。首報スル者ハ。斬絞以下。各本罪ニ。一等ヲ減ス。

第二百九十六條 凡脱監。及ヒ越獄シテ。逃走スル者。再逃以上ハ。又二等ヲ累加シ。罪。懲役終身ニ止ム。懲役場ヲ逃走シ。又監獄ヲ脱越スル者。罪。亦同。

第二百九十七條 凡犯人。責付内ニ。逃走スル者ハ。本罪ニ。一等ヲ加フ。

徒流人逃

凡徒流ノ囚人。役限。未タ滿スシテ。逃走スル者ハ。杖七十。仍ホ配所ニ發シ。其徒流原犯ノ年限ニ照シテ。新ニ拘役シ。已ニ役過セシ月日ハ。並ニ通算セス。再ヒ逃走スル者ハ。絞。若シ已ニ斷決セシ。徒流ノ罪囚ヲ發遣シ。未タ配所ニ到ラス。中途ニシテ逃走スル者モ。罪。亦同。

若シ囚禁。及ヒ責付内ニ。逃走シテ。自首スル者ハ。止タ本罪ヲ科シテ。逃罪ヲ免ス。

懲役人逃條例原徒流人逃律

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人。限内。逃走スル者ハ。杖七十。改テ棒鎖二日。再ヒ逃走スル者ハ。絞。改テ懲役終身。

第二百九十九條 凡懲役百日以下ノ囚人。限内。逃走スル者ハ。棒鎖一日。仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ。新ニ拘役シ。再ヒ逃走スル者ハ。棒鎖二

若シ主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ一名ニ答四十一名毎トニ一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ル故縱スル者ハ各囚ト同罪罪流三等ニ止ル財ヲ受ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス。

改正 七年二月七日 第十六號御布告

主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ一名ニ答四十一名毎ニ一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ルノ律ヲ改メテ未決ノ罪囚ト同シク主守不覺失囚律ニ依ル。

日更ニ懲役一年ニ入ル若シ外ニ在テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ原犯後犯ヲ通算シテ新ニ拘役ス其一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止タ後犯ノ年限ニ照シテ更ニ科斷ス。

第三百條 凡懲役一年以上ノ囚人逃走スル者ハ例ニ照シ棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役スト雖モ若シ逃走シ外ニ在テ又三年以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年限ニ原犯ノ年限ヲ合セテ拘役スルモ亦四年ニ過ルヲ得ス百

日以下ノ罪ヲ犯ス者モ亦原犯ニ合セテ拘役ス其五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止タ後犯ノ年限ニ照シテ科斷ス。

第三百一條 凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦例ニ照シテ棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役スト雖モ若シ逃走シ外ニ在テ重子テ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ並ニ拘役四年ヲ加フ其一年以上三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ後犯ノ年限ヲ折半

九年二月二十二日
號御布
改定律
例中人懲
犯罪人又
例懲役條
人逃條
增

補
三百二
條
刪
除

シテ。加役ス。其百日以下ノ罪ヲ犯
ス者ハ。役限ヲ全加シテ。折半スル
ヲ用ヒス。

第三百二條 凡懲役終身ノ囚人。逃
走スル者ハ。絞。

增加 九年二月二十八日
號御布告

凡懲役終身ノ囚人。逃走スル者ハ。棒
鎖三日。再々ヒ逃走スル者ハ。絞。

凡懲役終身ノ囚人。逃走シ。外ニ在テ
又罪ヲ犯ス者ハ。懲役人又犯罪條
内。懲役終身ノ囚人。又罪ヲ犯スノ
例ニ照シテ。科斷ス。

改正 十年三月二日
號御布告

凡懲役終身ノ囚人。再ヒ逃走スル者
ハ。絞。改テ棒鎖十日。

第三百三條 凡懲役人。逃走シテ。自
首スル者ハ。逃罪ヲ免シ。仍ホ原犯
ノ年限ニ照シテ。新ニ拘役ス。若シ
外ニ在テ。又罪ヲ犯ス者ハ。自首法
ニ照シテ。首免ヲ與フト雖モ。其逃
罪。及ヒ從新拘役ハ。仍ホ本法ヲ盡
ス。

第三百四條 凡懲役人ノ逃走ヲ報
シ。因テ逃走ヲ致サ、ルヲ得ル

新律綱領 ○捕亡律

五 改定律例 ○捕亡律

七年七月二日
司法省
第三十三號
布達
處刑濟
籍中送
在途

及無
籍無
授產
在場
鞫問
於中
逃走
者日
鎖科
一者
ル者
改例
式輕
以テ
實論
ス

者ハ。本罪ニ。一等ヲ減ス。
第三百五條 凡懲役人。逃走ヲ圖リ。未タ役場ヲ離レヌシテ。捕ニ就ク者ハ。棒鎖二日。從新拘役ノ限ニ在ラス。

第三百六條 凡懲役人。水火震災ノ變ニ因テ逸出シ。二十四時間ニ投歸スル者ハ。逃罪ヲ問ハス。若シ時ヲ過テ。投歸セサル者ハ。例ニ照シテ。棒鎖二日。仍ホ原役ノ剩ル日數ヲ役ス。其變ニ遇ヒ。内ニ在テ逸出セス。能ク消救防禦スル者ハ。本罪

ニ。一等ヲ減ス。

第三百七條 凡禁錮限内。外人ニ接見通信シ。若クハ。疾病療養等ニ託シテ。潛出行歩スル者ハ。原限ノ年日ニ照シテ。新ニ之ヲ科ス。若シ潛出シテ。他ニ投宿シ。及ヒ縱飲スル等ニ係レハ。懲役七十日。贖罪スルコトヲ聽シ。仍ホ新ニ原限ヲ科ス。

主守不覺失囚條例

第三百八條 凡主守。看守ニ失シ。囚テ未決ノ囚。自盡ニ至ラシムル者

主守不覺失囚

凡主守。罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ。答四十。若シ罪囚。反獄シテ逃走

新律綱領 ○捕亡律

六 改定律例 ○捕亡律

スルトキハ。一等ヲ減ス。故縱スル者ハ。各囚ト同罪。罪。流三等ニ止ル。若シ未タ斷決セサルノ間。自ラ捕獲シ。及ヒ他人捕得シ。若クハ囚已ニ死シ。及ヒ自首スレハ。各一等ヲ減ス。財ヲ受ル者ハ。贓ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。若シ賊外ヨリ獄ニ入り。罪囚ヲ劫スニ。防禦スト雖モ。力。敵スルヲ能ハサル者ハ。論スルヲ勿レ。

藏匿罪人

凡他人罪ヲ犯シ。事發シテ。官司人ヲ

ハ。懲役三十日。

第三百九條 凡主守。囚ノ逃走ヲ覺

ラサル者ハ。捕限三十日ヲ給シ。追捕セシム。限内。捕得スレハ。二等ヲ減ス。其故縱スル者ハ。捕限ヲ給セス。

第三百十條 凡保管人。囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ。主守ノ不覺失囚律ニ。二等ヲ減ス。

藏匿罪人條例

第三百十一條 凡官司人ヲ差ハシ。

差ハシ。追喚スルヲ知リ。家ニ藏匿シテ。捕告ヲ行ハス。及ヒ逃走スル道路ヲ指引シ。衣糧ヲ資給シ。送テ他所ニ隱避セシムル者ハ。各罪人ノ罪ニ。一等ヲ減ス。其輾轉シテ相送り。罪人ヲ隱匿スル者。情ヲ知ル者ハ。皆坐ス。知ラサル者ハ。論スルヲ勿レ。若シ官司ノ追捕ヲ偵知シテ。其事情ヲ漏泄シ。罪人ヲシテ。隱避セシムル者モ。罪人ノ罪ニ。一等ヲ減ス。未タ斷決セサルノ間。自ラ捕獲スル者ハ。罪ヲ免ス。若シ他人捕得シ。及ヒ罪人已

追喚スル罪人タルヲ知テ。爲メニ。藏匿指引シテ。隱避セシムル者ハ。各罪人ノ罪ニ。一等ヲ減スル律ヲ改メ。減。二等ニ從フ。若シ罪人。未タ官司ノ追喚ニ係ラス。若クハ。已ニ追喚スル者ト雖モ。未タ知ラスシテ。藏匿隱避セシムル者ハ。俱ニ情ヲ量テ。不應。爲ニ問ヒ。輕重ヲ分ツ。

ニ死シ。若クハ自首スレハ。又各一等
 ナ減ス。
 其罪人ニ。迫劫セラレ。力制スルヲ能
 ハス。已ムコトヲ得スシテ。藏匿スル者
 ハ。三等ヲ減ス。

新律綱領目錄

斷獄律 計一十一條

- 故_ニ禁無罪人_一
- 陵_ニ虐罪囚_一
- 與_ニ囚金刃_一
- 教_レ囚翻異
- 老幼不_ニ拷訊_一
- 獄囚誣_ニ指無罪人_一
- 出_レ入人罪_一
- 笞杖不_レ如_レ法
- 婦人犯_レ罪
- 死囚奏請待_レ報

改定律例目錄

斷獄律 增補計七條
 計一條

- 與囚金刃 二條
- 出入人罪 二條
- 死囚奏請待報 一條

斷罪不當

斷罪不當
增二條
補一條

新律綱領

斷獄律

故禁無罪人

凡官吏私讎ヲ懷挾シ故サラニ無罪人ヲ禁獄スル者ハ徒一年因テ死ニ致ス者ハ絞司獄官獄卒知テ舉首セサル者ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラサル者ハ坐セス
若シ官吏私讎ヲ懷挾シ故サラニ無罪人ヲ拷訊スル者ハ徒一年折傷以上ハ凡闘傷ニ二等ヲ加フ因テ死ニ致ス者ハ斬同僚官獄卒情ヲ知テ共

改定律例

斷獄律

新律綱領 ○斷獄律

改定律例 ○斷獄律

ニ拷訊スル者ハ。同罪。罪。流三等ニ止ル。知ラサル者ハ。坐セス。

陵虐罪囚一

凡獄卒。非理ニ在獄ノ罪囚ヲ。陵虐毆傷スル者ハ。凡闘傷ニ依テ論ス。罪囚ノ衣食ヲ尅減スル者ハ。賊ニ計ヘ。監守自盜ヲ以テ論ス。因テ死ニ致ス者ハ。絞。司獄官吏。知テ舉セサル者ハ。同罪。罪。流三等ニ止ル。

與囚金刃一

凡獄卒。金刃。及ヒ他物ノ自殺スヘク。及ヒ解脱スヘキノ具ヲ以テ。囚ニ與

與囚金刃條例

第三百十二條 凡常人。囚ニ金刃ヲ與ヘ。及ヒ子孫。祖父母。父母ニ與ヘ。

フル者ハ。杖一百。囚。逃走シ。及ヒ自傷シ。或ハ人ヲ傷スルヲ致ス者ハ。徒一年。若シ囚自殺シ。及ヒ人ヲ殺ス者ハ。徒二年。若シ財ヲ受ル者ハ。賊ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

教囚翻異

凡司獄官。獄卒。罪囚ニ教令シテ。事情ヲ翻異。變亂セシメ。及ヒ爲ニ。言語ヲ外人ニ通傳シ。其罪ヲ増減スル者ハ。故出入人罪。律ヲ以テ論ス。外人ノ犯

雇人。家長ニ與フル者ハ。各獄卒ノ罪ニ。一等ヲ減ス。

第三百十三條 凡獄卒。金錢。其他應禁ノ物ヲ傳遞シテ。囚ニ與フル者ハ。違令。重ニ問フ。若シ財ヲ受ル者ハ。賊ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

ス者ハ。一等ヲ減ス。若シ財ヲ受ル者ハ。並ニ贓ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

老幼不拷訊

凡年七十以上。十五以下。若クハ癡疾者ハ。並ニ拷訊ス可カラス。皆衆證ニ據テ。罪ヲ定ム。違フ者ハ。故失入人罪律ヲ以テ論ス。其相容隱スルコトヲ得ルノ人。及ヒ年八十以上。十歳以下。若クハ篤疾者ハ。皆證タラシムルコトヲ得ス。違フ者ハ。答四十。

獄囚誣指無罪人

凡罪囚。獄ニ在テ。無罪人ヲ誣指スル者ハ。誣告ヲ以テ論シ。其本犯罪重キ者ハ。重キニ從テ論ス。

若シ官吏。獄囚ヲ鞫問スルニ。非法ニ拷訊シ。故サラニ教令ヲ行ヒ。無罪人ヲ誣指スル者ハ。故入人罪律ヲ以テ論ス。

若シ囚ヲ鞫シテ。證佐ノ人。實情ヲ言ハス。故サラニ誣證ヲ行フ者ハ。罪人ノ罪ニ。二等ヲ減ス。

出入人罪

凡官吏。故サラニ人ヲ罪ニ出入シ。全

出入人罪條例

第三百十四條 凡故ラニ出入シ。及

ク出タシ。全ク入ル、者ハ。出入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス。若シ故サテニ輕ヲ増シテ。重ト作シ。重ヲ減シテ。輕ト作ス者ハ。其増減スル所ノ罪ヲ以テ坐ス。死ニ至ル者ハ。坐スルニ。死罪ヲ以テス。

若シ罪ヲ斷シテ。入ル、ニ失スル者ハ。各三等ヲ減ス。出タスニ失スル者ハ。各五等ヲ減ス。並ニ罪所由ヲ以テ。首ト爲ス。

若シ囚。未タ處決放免セズ。及ヒ放テ還タ獲。若クハ囚。自死スレハ。官吏ノ

ヒ入ル、ニ失スル罪人ハ。已ニ斷了ヲ經ルト雖モ。檢擧シテ。改正スルヲ得ヘキ者ハ。改正シ。其出タスニ失スル者ハ。貼斷スルヲ用ヒス。

第三百十五條

凡官司屍傷ヲ檢視

シテ。實ナラサル者ハ。懲役四十日。因テ罪ニ増減アル者ハ。失出入人罪ヲ以テ論ス。若シ財ヲ受ケ。故ラニ實ヲ以テセサル者ハ。故出入人罪ヲ以テ論ス。賊重キ者ハ。賊ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

罪。又各一等ヲ減スルヲ聽ス。

答杖不如法

凡官吏。答杖ヲ用ルニ。故サテニ法ノ如クセサル者ハ。答三十。因テ死ニ致ス者ハ。杖一百。埋葬金二十五兩ヲ追徴ス。答杖ヲ行フノ人ハ。各一等ヲ減シ。金兩ヲ追徴セズ。若シ罪人ノ臀腰。刑ヲ受クヘキ處ヲ。法ニ依リ決打シテ。邂逅ニ死ニ致ス者ハ。論スルヲ勿レ。

婦人犯罪

凡婦人。輕罪ヲ犯スハ。本夫ニ責付シ

テ。保管セシム。如シ夫ナキ者ハ。親屬
アツケル
鄰保ニ責付シテ。保管セシム。重罪ハ。
リヤウドナリクミンヒ
禁獄スルヲ許ス。違フ者ハ。答三十。
若シ婦人。懷孕シテ。罪ヲ犯シ。拷訊ス
ヘキ者ハ。上條ノ如ク。保管シ。産後一
百日ヲ待テ。拷訊スヘシ。若シ未タ産
セサルニ。拷訊スル者ハ。杖九十。因テ
墮胎スル者ハ。徒一年半。死ニ致ス者
ハ。流三等。

若シ懷孕ノ死囚ハ。穩婆ニ看視セシメ
テ。後ニ監禁ス。産ノ期ニ臨メハ。親屬
鄰保ニ責付シ。産後一百日ヲ待テ。乃

刑ヲ行フ。未タ産セスシテ。決スル者
ハ。徒一年半。産シ訖ルモ。日限未タ満
スシテ。決スル者ハ。杖八十。失誤スル
者ハ。各三等ヲ減ス。

死囚奏請待報

凡死囚ヲ奏請シ。回報ヲ待タス。輒シ
處決スル者ハ。杖七十。
若シ禁刑ノ日ニ於テ。決スル者ハ。答
三十。

斷罪不當

凡罪ヲ斷シテ。決配ス可キヲ。故サラ
ニ收贖シ。收贖ス可キヲ。決配スル者

死囚奏請待報條例

第三百十六條 凡獄已ニ成リ。罪。死
ニ該ル者ヲ奏請シ。待報内ニ在テ。
死亡スルニ。遺骸ハ。親屬請フ者ア
レハ。下付スルヲ聽ス。

斷罪不當條例

第三百十七條 凡收贖ス可キヲ。誤
テ實斷スル者。改正スルヲ得ヘ

ハ。故出入人罪律ニ依テ。一等ヲ減ス。
失誤スル者ハ。失出入人罪律ニ依テ。
一等ヲ減ス。
若シ絞ス可キヲ。故サテニ斬シ。斬ス
可キヲ。絞スル者ハ。答五十。失誤スル
者ハ。三等ヲ減ス。

新律綱領終

キ者ハ。改正シ。其實斷ス可キヲ。誤
テ收贖スル者ハ。貼斷スルヲ用
ヒス。

第三百十八條 凡罪ヲ斷スルハ。口
供結案ニ依ル。若シ甘結セスシテ。
死亡スル者ハ。證佐アリト雖モ。其
罪ヲ論セス。

改正 九年六月十日
第八十六號御布告

凡罪ヲ斷スルハ。證ニ依ル。若シ未ダ
斷決セスシテ。死亡スル者ハ。其罪
ヲ論セス。

改定律例終

增新律綱領附錄目錄
補改定律例

讒謗律

官吏懲戒例

華族懲戒例

遺失物取扱規則

斷罪證據

新律綱領 改定律例 ○附錄目錄

增
新律綱領附錄
補
改定律例

○ 讒謗律 明治八年六月二十八日
第一百號御布告ヲ以テ創定

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス。人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發
公布スル者。之ヲ讒謗トス。人ノ行事ヲ舉ルニ非スシテ。惡名ヲ以テ人
ニ加ヘ。公布スル者。之ヲ誹謗トス。著作文書。若クハ畫圖。肖像ヲ用ヒ。展
觀シ。若クハ發賣シ。若クハ貼示シテ。人ヲ讒毀シ。若クハ誹謗スル者ハ。
下ノ條例ニ從テ。罪ヲ科ス。

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ。乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄三月以上。三
年以下。罰金五十圓以上。千圓以下。
〔二罰并セ科シ。或ハ偏ヘニ
一罰ヲ科ス。以下之ニ倣ヘ。〕

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ。禁獄十五日以上。二年半以下。罰金十五
圓以上。七百圓以下。

第四條 官吏ノ職務ニ關シ。讒毀スル者ハ。禁獄十日以上。二年以下。罰金十圓以上。五百圓以下。誹謗スル者ハ。禁獄五日以上。一年以下。罰金五圓以上。三百圓以下。

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス。讒毀スル者ハ。禁獄七日以上。一年半以下。罰金五圓以上。三百圓以下。誹謗スル者ハ。罰金三圓以上。百圓以下。

第六條 法ニ依リ。檢官若クハ法官ニ向テ。罪犯ヲ告發シ。若クハ證スル者ハ。第一條ノ例ニアラス。其ノ故造誣告シタル者ハ。誣告律ニ依ル。

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事。刑法ニ觸ル。者。檢官ヨリ。其事ヲ糾治スルカ。若クハ讒毀スル者ヨリ。檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ。讒毀ノ罪ヲ治ムルコトヲ中止シ。以テ事案ノ決テ候テ。其ノ被告人。罪ニ坐スル時ハ。讒毀ノ罪ヲ論セス。

若シ事。刑法ニ觸レシテ。單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ。讒毀スルノ後。官ニ告發スト雖モ。仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ス。

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ。被害ノ官民。自ラ告ルヲ待テ。乃ハテ論ス。

○官吏懲戒例 九年四月十四日第三十四號御布告ヲ以テ。創定シ同日第四十八號ヲ以テ。新律綱領改定律例中。官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢シ。自今官吏職務上ノ過失ハ。有心故造。私罪ニ入ル者ヲ除クノ外。其本屬長官ニ任シテ。懲戒處分セシム。

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ。官吏職務上ノ過失ハ。本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ。

第二條 懲戒ノ法三種トス。第一。譴責。第二。罰俸。第三。免職。

第三條 譴責ハ。懲戒ノ輕キモノトシテ。本屬長官ヨリ。譴責書ヲ附ス。

第四條 罰俸ハ。半月ヨリ少カラス。三月ヨリ多カラス。間。俸ヲ奪フ。俸

ヲ追スルノ法ハ。毎月給俸ノ半ヲ領置シ。數滿テ大藏省ニ送付ス。

第五條 懲戒ヲ以テ。免職スル者ハ。本屬長官ノ意見ニ從ヒ。其奏任ハ。具狀奏請シテ。之ヲ免シ。位記ヲ返上セシム。

但懲戒ニ由ルニ非シテ。免職スル者ハ。長官旨ヲ諭シ。本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ。然後免許ス可シ。

第六條 諸省長官ハ。所屬奏判任官ヲ懲戒ス。

第七條 府縣奏任官ハ。太政大臣。之ヲ懲戒ス。府縣並警視廳判任官ハ。其長官之ヲ懲戒ス。

第八條 四等以下ノ判事ハ。司法卿。之ヲ懲戒ス。府縣官判事ヲ兼ル者ノ。其所屬判任官ニ於ルハ。他ノ奏任以上。府縣官ノ協議ヲ得タル後。之ヲ懲戒ス。

第九條 府縣長官。警視長官。其所屬判任官ヲ懲戒スルニ。其譴責ヲ專行

スルヲ得ルヲ除クノ外。其罰俸免職ヲ行フハ。便宜處分シテ。速ニ内務卿ニ届出ヘシ。

府縣官判事ヲ兼ル者。其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ。便宜處分シテ。速ニ司法卿ニ届出ヘシ。

第十條 其有心故造。私罪ニ入ル者ハ。職務上ノ罪ト雖モ。之ヲ司法官ニ移シ。本屬長官。專ニ處分スルヲ得ス。

○華族懲戒例 十年五月十日御布告

第一條 華族ハ。國民中。貴重ノ地位ニ居ル故ニ。其過失。或ハ體面ヲ汚スモノハ。假令法律ニ觸レサルモ。仍ホ之ヲ懲戒ス。

第二條 懲戒ノ法。三種トス。第一。譴責。第二。謹慎。第三。整居。

第三條 譴責ハ。懲戒ノ輕モノニシテ。宮内卿ヨリ譴責書ヲ下行ス。

第四條 謹慎ハ。十日ヨリ少カラス。百日ヨリ多カラス間。外出ヲ禁シ。門
戸ヲ鎖シ。等親ヲ除クノ外。面會ヲ許サス。其事情ノ重キ者ハ。位階ノ降
級スルヲモアルヘシ。

第五條 蟄居ハ。位記ヲ止メ。外出ヲ禁シ。其家ハ。次ノ相續人ニ命シテ相
續セシム。

第六條 凡ソ懲戒ノ輕重ハ。其事情ヲ酌量シ。宮内卿之ヲ密案具狀シ。制
可ヲ得テ。然後施行ス。

第七條 凡華族ノ犯罪。法律ニ係ルモノハ。裁判官ノ處刑ヲ經シ後。宮内
卿。其輕重ヲ酌量シ。事宜ニ應シ。仍ホ懲戒ヲ加フルヲ。例ノ如シ。

○遺失物取扱規則 九年四月十九日。第五十六號御布告ヲ以テ創定シ。
同日。第五十五號御布告ヲ以テ。新律綱領得遺失物
律ヲ改正シ。改定律例。第二百八十二條。第二百八十三條。第二百八
十四條。第二百八十五條。第二百八十六條ヲ刪除ス。

第一條 凡シ遺失物ト稱スルハ。自ラ其遺失スルヲ覺ラス。及ヒ其所
在ノ明カナラサルモノヲ云フ。故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ。物主。其場
ニ就テ。其主タルヲ證明スルニ於テハ。直ニ之ヲ返還シ。遺失物ヲ以
テ論スルヲ得ス。

第二條 凡シ遺失ノ物ヲ得レハ。五日內ニ其主ニ還シ。其主分明ナラサレ
ハ。之ヲ官ニ送ルヘシ。官之ヲ榜示シ。一年內。其主ナキハ。之ヲ得者ニ
給ス。

第三條 凡シ遺失物ハ。其遺失スル物品ノ摸樣員數。並ニ遺失ノ日時場所
等ヲ。可成丈ケ詳細ニ記載シ。速ニ官ニ届出ヘシ。但得者ヨリ。其返還ヲ
得ルキモ。亦更ニ其旨ヲ届ケ出ヘシ。

第四條 凡シ遺失ノ物ヲ得レハ。之ヲ其主ニ還スト雖モ。其費用ヲ償ハシ
ムルヲ得。且得者ニ報勞ノ爲メ。其物價百分ノ五ヨリ少カラス。二十

ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ。若シ物主。得者ト其價格ヲ争フキハ。官之ヲ評價人ニ托シテ。其價ヲ定ム。

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ。物品盜賊ニ係ルモノハ。直ニ官ニ送ルヘシ。官之ヲ其主ニ還シ。止タ其費用ノミヲ償ハシム。

第六條 凡官私ノ地内ニ於テ。埋藏ノ物ヲ堀得ル者ハ。並ニ官ニ送リ。地主ト中分セシム。但其主分明ナルモノ。及ヒ盜贓ニ係ルモノハ。此限ニアラス。

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ。若シ其物耐久シ難クシテ。其主分明ナラサルキハ。迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ。官之ヲ公賣シ。其代價ヲ領置シ。榜示シテ。處分スルヲ。第二條ノ如シ。

第八條 凡家畜ノ類。他所ニ逸走スルモノハ。之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト。雖モ。其主ヨリ之ヲ官ニ報シ。及ヒ得者ニ。其費用ト報勞金ヲ給與

スルヲ。第三條第四條ニ同シ。若シ他人ノ財産ヲ毀損スルハ。律ニ照シテ處分ス。

第九條 凡逃走スル畜類ヲ得タル者。其主分明ナラサレハ。之ヲ官ニ送ルヘシ。若シ八日內。其主ナケレハ。官之ヲ公賣シ。得者ニ其費用ヲ償ヒ。仍ホ代金ノ餘剩アルモノハ。之ヲ官ニ領置シ。榜示シテ處分スルヲ。第二條ノ如シ。

第十條 凡遺失物。及ヒ逃走畜類ノ官ニ係ルモノハ。官ヨリ得者ニ。其費用ト報勞金ヲ給スルヲ。私物ニ異ナルヲナシ。

第十一條 凡警察官吏タル者ハ。所部ノ内外ヲ問ハス。遺失物ヲ得レハ。速ニ之ヲ官ニ送リ。至ク其主ニ還付シ。其主ナケレハ。之ヲ官ニ沒ス。

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ。遺失及ヒ埋藏ヲ論セス。並ニ官ニ沒ス。

第十三條 凡公私債證書。地券諸鑑札等ノ類ハ。遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト。雖モ。物主ハ得者ニ。其費用ヲ償フヘシ。

第十四條 凡遺失物。及ヒ逸走畜類ヲ得。若クハ埋藏物ヲ掘得テ。官私ニ全ク送還セス。或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ。冒認シテ返却セサル者ハ。並ニ律ニ照シテ處分ス。

○斷罪證據 九年八月二十八日司法省ヨリ大密院各裁判所裁判所ヲ置サル各縣へ達書

- 第一 被告人眞實ノ白狀。
- 第二 被告人又ハ其他ノ文通。又手筆ノ文書。
- 第三 相當官吏ノ檢視明細書。
- 第四 證左。及參考ノ陳述。
- 第五 裁判所ヨリ任シタル鑒定人ノ報告。

第六 證據物品。

第七 徵驗(佛語アングス) 事實ノ推測(佛語プレソンプシオンドプエー) 顯迹(佛語エウイダンス)

第八 法ノ推測(佛語プレソンプシオンレガル) 前件ノ證據ニ依リ罪ヲ斷スルハ。専ラ裁判官ノ信認スル所ニアリ。

增
補
新
律
綱
領
附
錄
終
改
定
律
例

同
明
治
十
年
十
月
五
日
官
許
年
十
一
月
二
日
出
版
御
届

增
補
人

東
京
府
平
民

近
藤
圭
造

第
六
大
區
壹
小
區

深
川
富
岡
門
前
町
七
拾
番
地

同

坂
上
半
七

第
一
大
區
六
小
區

日
本
橋
吳
服
町
拾
二
番
地

同

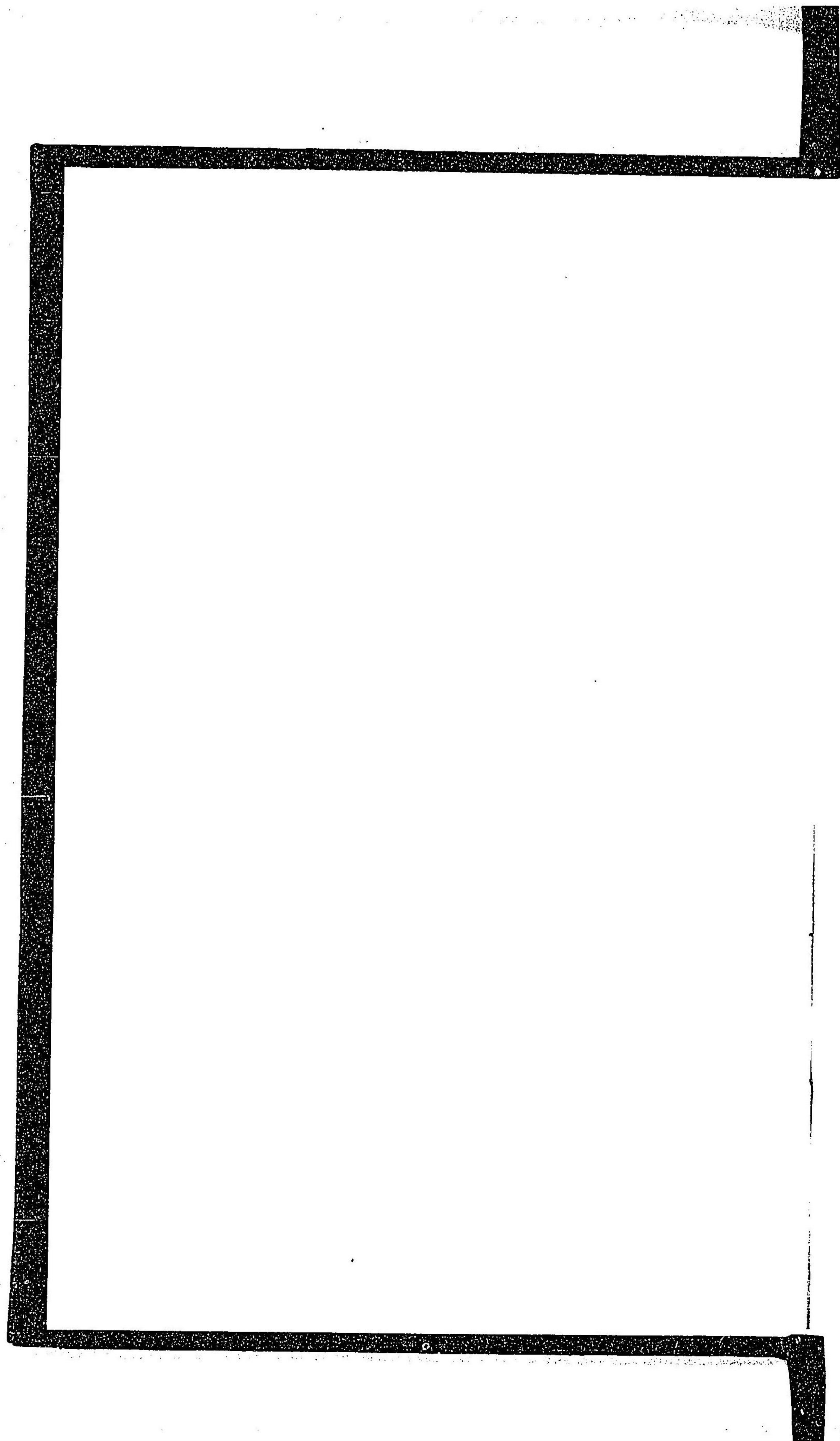
須
原
鐵
二

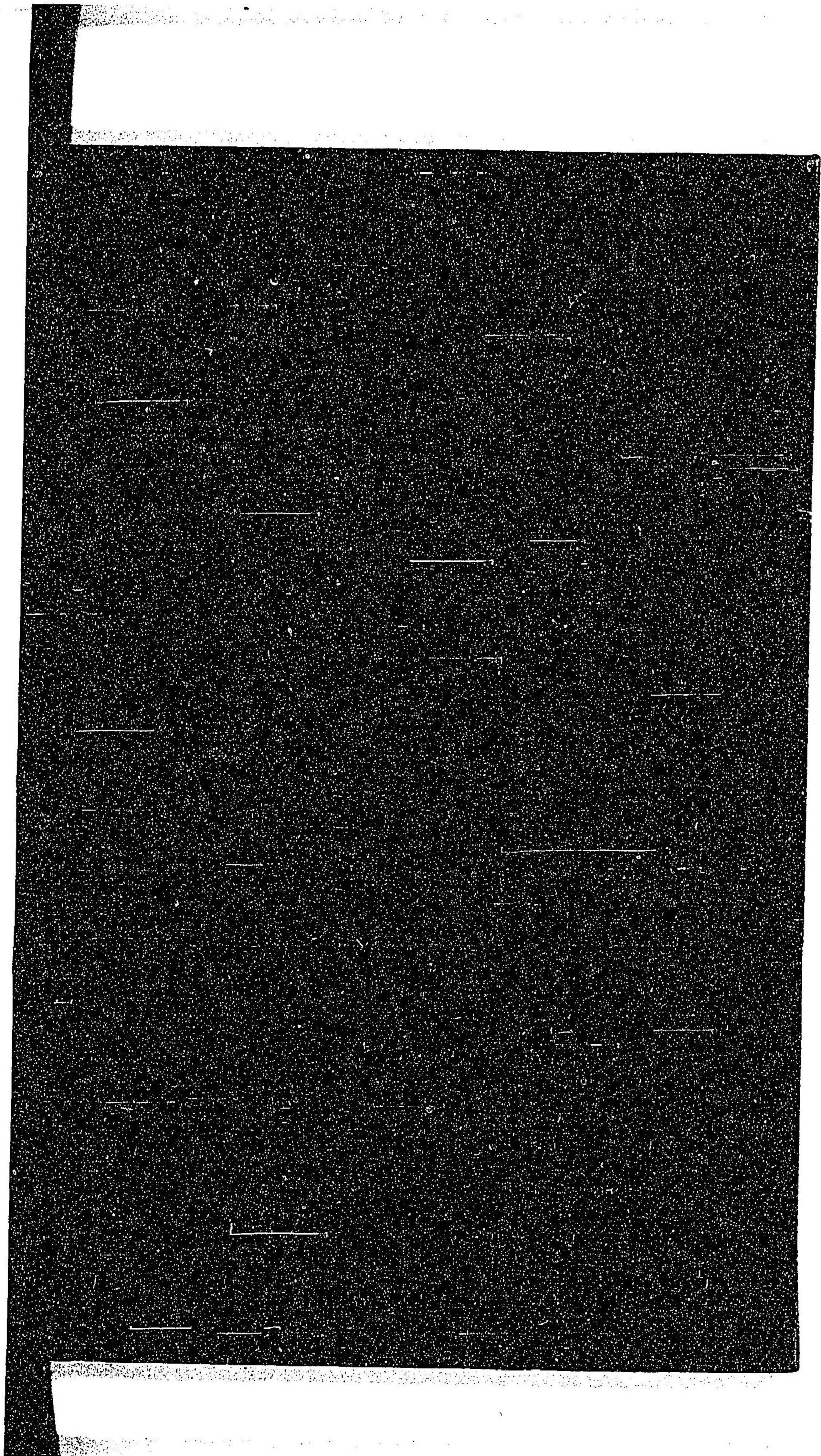
同
西
川
岸
町
拾
二
番
地

出
版
人

2168-10

世寶金銀印





29
6

036269-000-0

29-6

新律綱領改定律例対比合卷

近藤 圭造 / 編

M10

BBP-0989



